

この記事はムニンドラ・パンダ師の講義の内容です。
 翻訳は宮石詠子、記録／草稿は上里月乃、編集は茶丸によってなされました。

सदृशं चेष्टते स्वस्याः प्रकृतेर्ज्ञानवानपि ।
 प्रकृतिं यान्ति भूतानि निग्रहः किं करिष्यति ॥३३॥
 sadṛśaṃ ceṣṭate svasyāḥ prakṛterjñānavānapi ।
 prakṛtiṃ yānti bhūtāni nigrahaḥ kiṃ kariṣyati ॥33॥

では、またこの詩節の冒頭から読み解いて行きたいと思います。
 初めからすべての言葉を理解するならば、皆さんの疑問も解き明かされることでしょう。主は様々な聖典を通じて、沢山のことを教示しようとしています。しかし残念ながら、私たちは主の教えに耳を傾けません。
 ここで重要となるのは、なぜ人々は主の教義を傾聴しようとししないのか？ という点です。これが、この33詩節の主題です。この点について、注釈者のシャンカラチャーリヤが序文にて美しく説明しています。

कस्मात् पुनः कारणात् त्वदीयं मतं न अनुतिष्ठन्ति kasmāt punaḥ kāraṇāt tvadīyaṃ matam na anutiṣṭhanti
 再び、なぜ人々はあなたの教えに従わないのでしょうか？

कस्मात् कारणात् kasmāt kāraṇāt 一体どんな理由で

主の教えに従わない人々には、何か特別の理由があるのでしょうか？
 なぜなら、すべての人々は、この世界を生きる上で、何らかの哲学(考え方)に従わなければなりません。つまり、この世に生きる人であれば、皆、自分自身の哲学に沿って命をつなぐということです。哲学を持たずに、この世で生き抜くことは人として不可能です。動物や鳥など他の生類は、哲学なしで生きています。と言うのは、知性がないために考えることもできないからです。彼らは前の人生から受け継いだ本能のまま、今生を過ごしています。しかし人間は、知性があるため、考えを持たずに生きることはできません。泥棒ですら、彼ら自身にふさわしい哲学を持っています。それを私たちが受け入れるか否かは、別の事です。あらゆる人々は、何かの哲学に則って生きています。ここで主は、聖典を通じた私の教えに従うか、もしくは他の誰かの教えに従っているのか、どちらかである、と述べています。

परधर्मम् paradharmam という言葉が注釈の中に表れますが、これは「真の自分の哲学や考え方ではない」という意味です。

पर para 自分ではない

धर्म dharma 哲学

彼らは私のダルマに従わずに、他の誰かのダルマに従っています。ここでは **स्वधर्म** svadharmā と **परधर्म** paradharma という、二つの正反対の言葉が述べられます。そして、この **स्वधर्म** svadharmā と **परधर्म** paradharma については、後の詩節で、より深く勉強します。ここで主はこのように言及しています。

स्वधर्मं च न अनुतिष्ठन्ति/ अनुवर्तन्ते svadharmam ca na anutiṣṭhanti /anuvartante

彼らは為すべき義務を果たさない

彼らは彼ら自身の義務を果たさない、ということですが、では一体、何をするというのでしょうか？ 彼らは、真の自分の義務を果たしていません。では **स्वधर्म** svadharmā 自分の義務とは一体何でしょうか？ それはカルマ・ヨーガ(行為の

結果を動機とせずに行為を行うこと)であり、ヤジュニヤ(供儀)を行うことです。そして、自己学習と学んだ知識を分かち合う事です。しかし、これら自らのダルマを行わずに、人々は自分のダルマ以外の欲望を叶え続けています。とはいえ、欲望を叶え続けている彼らは、恐れてはいないのでしょうか？

त्वत् प्रतिकूलाः कथं न बिभ्यति ? tvat pratikulāḥ katham na bibhyati ?
あなたに反することで、彼らは恐れたりはしないのでしょうか？

त्वत् प्रतिकूलाः tvat pratikulāḥ あなたの教えに反対し続けることで

他の規則を恐れているにもかかわらず、あなたの規則に従わない事を恐れない、という理由は何でしょうか？
他の規則と述べることで、誰を示しているのでしょうか？

राजानुशासनातिक्रमे दोषदर्शनाद्भगवदनुशासनातिक्रमेऽपि दोषसंभवात्प्रतिकूलत्वं भयकारणं
rājānūsāsanātikrame doṣadarśanādbhagavadanūsāsanātikrame 'pi
doṣasambhavātpratikūlatvaṃ bhayakāraṇam

ラー ज्याアヌシャーサナ アティクラミ ドーシャダルシャナートウ バガヴァットウアヌシャーサネ アティクラミアピ
ドーシャサムバヴァートウ プラティクラーラットヴァム バヤカーラナム

もし私たちが、王様が定めた規則や国の法律に従わなければ、罰せられるでしょう。同様に、もし主が創造した宇宙の規則に従わなければ、それもまた罰を受ける事になるでしょう。

しかし人々は、権力者の罰を恐れても、主の罰を恐れることはありません。

ミーラバイという名の有名な聖女に対して、王は「もし、お前が主に祈り続け、そして悟りの道を歩むというのなら、この国から追放してやる」と脅しました。それに対してミーラバイは、素晴らしい答えをしました。「王様、もしあなたが私をこの国から追放されるというのなら、私はまた、どこか別の国へまいります。しかし、私が主の国(世界)から追放されたなら、私には他に行き先があるのでしょうか？ ですから、私はあなたと敵対することはできても、主に対して敵対することはできません。」これはミーラバイによって述べられた大変偉大な言葉です。

人々は主に対して敵対心を持つことで、どのような問題が起こるかを心配していません。なぜ人々は主の法則に従わないのでしょうか？ この点が、33節の中で見事に説明されています。

भूतानि प्रकृतिं यान्ति bhūtāni prakṛtiṃ yānti すべての生き物たちは彼らの性質に従います。

ज्ञानवान् अपि स्वस्याः प्रकृतेः सदृशं चेष्टते jñānavān api svasyāḥ prakṛteḥ sadṛśam ceṣṭate
賢者であってさえも、彼自身の性質に従って行動します。
彼は賢者でさえも例外にはしていません。

निग्रहः किं करिष्यति nigrahaḥ kiṃ kariṣyati であれば制止して何になるうか？

すべての人はそれぞれ自分の性質に従うものです。一体誰の性質でしょうか？ それは、

स्वस्यः svasyaḥ 自分自身の性質

それはその人自身によって過去になされたものです。प्रकृति prakṛti とは何でしょうか？ 前回 प्रकृति prakṛti とは性質であると勉強しました。また、これは स्वभाव svabhāva という言葉でも表されます。

प्रकृतिः नाम पूर्वकृत धर्म अधर्मादि संस्कारः prakṛtiḥ nāma pūrvakṛta dharma adharmādi saṃskāraḥ
性質とは、過去に為した行為の印象です。

पूर्वकृत संस्कारः pūrvakṛta saṃskāraḥ 過去に行った行為の印象

これはひとつの人生で為した行為ではなく、沢山の人生を経て為した行為です。それらはすべて私たちの原因の体の中に蓄積されており、その中から私たちはいくらかのものをこの人生に携えてきました。そしてそれは誕生した瞬間からすでに現れています。

वर्तमान जन्मादौ अभिव्यक्तः vartamāna janmādau abhivyaktah
私たちの誕生の最も初めの段階から、それは機能し始めます。

वर्तमान vartamāna 現在

वर्तमान जन्म vartamāna janma 現世

तस्याः सदृशम् एव सर्वो जन्तुः tasyāḥ sadṛśam eva sarvo jantuḥ
すべての生き物たちはその性質にのみ従って行為を行います。
そのため、

ज्ञानवान् अपि jñānavān api 賢者であつてさえも

と、述べられています。賢者でさえも、自らの性質に従って行為をします。そうであるなら、ましてや愚か者の場合はどうでしょう？

किं पुनः मूर्खः kiṃ punaḥ mūrkhah

मूर्खः mūrkhah 無知な人、愚かな人

ここでは、愚か者のことどころではなく、賢者ですらその性質に従って行動する事が説かれています。

तस्मात् प्रकृति यान्ति भूतानिः tasmāt prakṛti yānti bhūtāniḥ

従って、全生類はそれぞれの性質に応じて行為をします。
では、なぜそうしたことを支配しないのでしょうか？ あなたは神様であるから、ご自身で支配できるのではないのでしょうか？

निग्रहः किं करिष्यति nigrahaḥ kiṃ kariṣyati 一体制止して何になるのでしょうか？

निग्रहः nigrahaḥ 禁止

それが例え、私からの禁止であるにせよ、他の人からの禁止であるにせよ

मम mama 私の

「私の」とは何を示しているのでしょうか？

ईश्वरस्य निग्रह īśvarasya nigraha 神の禁止であつてさえも

先程、**प्रकृति** prakṛti とは、**स्वभाव** svabhāva という言葉でも表される事があると告げました。それはあらゆる生類が持ち合わせている印象であり、私たちが過去の人生から携えてきた印象です。また、実に誕生した瞬間から目に見えて明白なものでもあります。

トウルシーの葉は芽吹いた当初から香りを放ちますが、その芳香を嗅げば、これがトウルシーだとすぐに理解できます。そして白檀の木は、あたり一面に芳しい香りを振り撒き、その木のどこからでも馨香が漂います。なぜなら、それら植物の中に、その性質、その印象が存するからです。さらにはその木や植物を触っただけで、全身を搔いてしまうような、そんな植物もあります。このように、すべての生き物たち、植物であつてさえも、この印象に従って行為をします。

ではここで、なぜ人々はサーカスに行くのかについて考えてみましょう。人々はサーカスに行くのが好きなものですが、なぜ私たちはサーカスに行きたいのでしょうか？

Qそれを見て笑うためです。<シリーシャさん>

先生：笑うためとおっしゃいましたが、ただ笑うためであれば、テレビでお笑い番組を見ても笑う事ができるでしょう。なぜ、わざわざサーカスを見に出かけるのでしょうか？

Q楽しいからだと思えますけれども。＜祥子さん＞

先生：楽しむためであるならば、テレビでドラマを見るなど、他の楽しみも得ることができるでしょう。ここで重要な点は、サーカスの中での動物達は、自分の性質には持ち合わせていない行動を見せているということです。そこにいるすべての動物達は自分たちの本性に逆らったことを演じています。例えばトラが、人の命令に従って三輪車に乗っています。それを見た人々は「トラが人間の言うことを聞くのだ」と言って驚きますが、つまり、本性にはないことを行うというトラの行動が、私たちを驚愕させているのです。

そもそも人が乗るためのものである自転車に、人が乗っていたとしても、私たちは注視したりはしません。しかし、トラが三輪車に乗っているのを見て、人々は喫驚してしまいます。とはいえ、その同じトラが、三輪車に乗るのではなく、調教師を捕まえて食べるというのであれば、それはトラの本性に従った行動として認められるでしょう。その時人々は、トラを責めるのではなく、調教師に対して「なぜそんなことをさせたのか」と非難するのです。

それゆえ、この **प्रकृति** prakṛti とは、大変素晴らしい説明であり、これを会得するならば、インド哲学全体を理解することができます。**प्रकृति** prakṛti とは、潜在的な印象として説明されますが、それは特に、私たちの過去世の潜在的な印象を示しています。そして、それらは存在しているものですが、初めから顕現してはいません。

種をご覧ください。種の中には木に成長するという印象がありますが、種を見ただけでは、どこに幹があるのか、どこに花があるのか、全く見当が付きません。種の中に何か果物を見ることができるでしょうか？ その種の中には何も見えないばかりか、種そのものも、ほんの1グラムほどしかありません。その1グラムほどの種が何百トンもの大木である菩提樹に成長します。1グラムの中に、一体どうやって100トンにもなる存在が収まっているのでしょうか？ このように、存在してはいるものの、初期には顕現していないもの、それを印象、あるいは **स्वभाव** svabhāva と言います。この点をご理解いただけましたか？

同じように、私たちのこの原因の体の中には、何百万もの印象が蓄積されています。そして私たちが誕生した後で、これらの印象は、まるで木が日々ゆっくりと成長かのように、少しずつ展開して行きます。私たちはその木の成長を毎日見ることができます。ある木は今日、芽を出しました。そして明日には葉が萌え出でしょう。その次にはつぼみをつけ、さらに翌日には花が咲き、そして終いには実をつけるでしょう。これらすべてが顕現するのは、その中に印象を有していたからです。そして同様のものが、人間にとっての **संस्कार** saṃskāra であると言えます。

संस्कार saṃskāra、**स्वभाव** svabhāva、**प्रकृति** prakṛti、これらはどれも、ほぼ同じ意味を表しますが、異なる言葉で説明しています。人間の **स्वभाव** svabhāva はゆっくりと展開して行き、それが姿を現すには適切な時間を必要とします。そしてこれらすべての印象は、私たちの原因の体の中に隠され、蓄積されており、その **संस्कार** saṃskāra は、潜在という形で存していることとなります。

प्रकृतिः नाम पूर्वकृत धर्म अधर्मादि संस्कारः prakṛtiḥ nāma pūrvakṛta dharmādharmādi saṃskārah

ここで **प्रकृति** prakṛti という名で説明されているものは、私たちの過去の行為の印象です。

では、これらの過去の行為とはどういったものなのでしょう？

धर्म अधर्म आदि dharma adharma ādi それらは美德と悪徳などなど

私たちは生きている間に、美德(ダルマ)と悪徳(アダルマ)を行います。ここで述べている論題は、人間としての生についてであり、人間以外の他の生き物のことではありません。私たちは人間ではない他の生をいくつも重ねてきましたが、人以外の生においては、ダルマもアダルマも行うことはできません。ここで、美德や悪徳として数えあげられている行いは、すべて人間の人生においてのみのことです。ライオンやトラが、何千人もの人々や他の生き物を殺傷したとしても、不徳(アダルマ)にはなりません。しかし私たちが誰かを傷つけてしまったならば、それは不徳となります。この点はおわかり頂けましたか？ ここまでの内容について、ご質問はありませんか？

Q先生は、サムスカーラを latent (潜在的な)と仰いましたが、それはどういった意味でしょうか？ <シリーシャさん>

先生：それは私たちの中に潜在しているという意味です。種の中には木の全てが隠れています。このように、目では見ることができないけれども存在しているもの、それを潜在しているものと言います。例えば来月、あなたはアフリカに行くことになりました。今まで一度もアフリカに行くことなど考えたこともありませんでしたが、しかし、勤めている会社の命令によってアフリカに行かなくてはなりません。数ヶ月前、この授業にいらっしやっていたある方がブラジルに転勤されました。生涯においてブラジルに行くことなど夢に見たことも無かったでしょう。けれども彼は行かなくてはなりません。なぜ彼が、ブラジルへ行かなければならなかったのかというと、ブラジルへ行くという事が、彼の中に印象 (संस्कार saṃskāra) として存在していたからです。これは、たまたま起こったことではなく、目的を持って為されたことです。人生において、偶然によって引き起こされる出来事は何もなく、すべてはあらかじめ決められているものなのです。私たちがそれを知らないだけです。それを潜在しているものとして説明します。

Qそれをプララーブダ・カルマという言葉では呼ばないのでしょうか？ プラーブダ・カルマとサムスカーラは違うのでしょうか？ <上里さん>

先生：プララーブダカルマと言ったならば、あまりにもその論点が大きくなってしまいますので、それをもっと簡潔に表すために संस्कार saṃskāra という言葉を使います。私たちが目で見ることができる形のプララーブダ・カルマが संस्कार saṃskāra です。しかし、単にプララーブダ・カルマと言ったならば、誕生してから死ぬまですべてがプララーブダ・カルマに該当します。それは私たちが把握しているものもあれば、把握していないものもあります。しかし स्वभाव svabhāva と言ったならば、それは知覚することができるものです。例えばあなたには3人の子供がいます。3人の子供は皆同じでしょうか？

>全然違います。<上里さん>

3人は全く違ってきます。しかし母胎は同じです。

先生：食べているものも同じで、同じ家に住んでいます。共通の環境で育てているのに、彼らの性質は全く違ってきます。インドで、8人兄弟の末っ子として生まれた大統領がいました。彼の生まれ育った家庭には8人の子供がいたわけですが、誰もが大統領になったわけではありません。他の兄弟達は誰も大統領にならなかったのに、末っ子だけが大統領になりました。つまり、それぞれの人が持っている印象とは、それぞれに異なっているということです。そして目に見える स्वभाव svabhāva、それが印象です。プララーブダ・カルマと一言で説明してしまえば、すべてがプララーブダ・カルマです。しかし自分で見る事ができるもの、そして他の人にもはっきりと見て取れるもの、それがここでいう स्वभाव svabhāva であり संस्कार saṃskāra です。唐辛子とは、もともと辛いものです。なぜ、唐辛子はそんなに辛いのでしょうか？ それは唐辛子であるから辛いのです。砂糖は甘いものです。いや、私はしょっぱい砂糖を持っています。そうなのであれば、それはもう砂糖とは呼べません。それは塩と間違っているのであって、砂糖ではありません。このように初めから存在し、変化することのない印象、それを स्वभाव svabhāva と言います。

Q以前はそういった点を धर्म dharma として説明して頂きました。砂糖が甘いという事は、砂糖が最初から持っている性質ですので、それは धर्म dharma であると、習っていたのですけれども。<ハルさん>

先生：科学的な言葉でそれを स्वभाव svabhāva と言い、哲学的な言葉では धर्म dharma と言います。ですから स्वभाव svabhāva と धर्म dharma は同じ意味です。धर्म dharma という一言は、あまりにも数多くの意味で用いられます。そのため、ある特定の文脈を理解する時、混乱を招きます。धर्म dharma とは、宗教や性質、義務など、まったく異なる方面の意味が派生する言葉であるため、ここでは धर्म dharma という言葉よりも स्वभाव svabhāva という言葉で理解する事にしましょう。

Qサーカスの例があったのですが、動物の本性にない、プラクリティではないものを人間が喜ぶとは、一体どういうことなのでしょう？ <渡辺さん>

先生：私たちは、猛獣が三輪車に乗り、人間の言うことを聞くなど、明らかにその本性に反する行動を見て、つまりトラが有し得ない स्वभाव svabhāva を見る事によって驚き入るからです。人間とトラとは、それは食べ物と食べるものという関係にあります。トラは人間を食べるものであり、人間はトラにとっての食物です。しかしこのトラは人間の命令に従って三輪車に乗り、遊んでいます。このような行動はトラの印象に反しているものであり、この点が私たちに驚嘆させるためその意外性に満ちた光景を目の当たりにしようと、人はサーカスへと足を運ぶのです。

Qその印象と呼ばれるものを人間が支配して変える事ができるからこそ、それを見て驚くのでしょうか？ と、言うか、そもそも印象を支配できるのでしょうか？ <渡辺さん>

先生：私たちは動物園に行くこともあれば、サーカスにも行くこともあります。動物園には、檻に閉じ込められた動物達がいいて、彼らが踊ったり、自転車に乗るなどの芸は見るできません。しかしサーカスの場合は、その動物達が慣れない行動を調教され、行っているのを見ます。彼らは印象(संस्कार saṃskāra)の中には全くないことを行っていますが、もちろん喜んで演じているわけではなく、食べ物を得るためであったり、罰せられたりすることによって、その芸を覚ええました。つまり彼らは、生まれつき備わっていない行動をしています。そのため人々はサーカスを見に行きます。

Q संस्कार saṃskāra 印象は自分の意思で変えることができるのでしょうか？ <渡辺さん>

先生：संस्कार saṃskāra の、行為の部分は全く変えることができません。人間であっても、動物であっても、賢者であってもさえも、印象(संस्कार saṃskāra)の物質的側面を変貌させる事はできません。しかし、知識を通じてその संस्कार saṃskāra を理解することができます。なぜなら、行為として行っている事を知識で理解する事、それが悟りの境地であるからです。それがここにおいて最も大切な点です。どんな生き物も彼らの印象を今生において変化させることはできません。けれども、今の知識を使う事によって、次の人生では行為ですら変えられます。それもまた、その人が変えたいと望むからです。

Q熊が三輪車に乗るのは、स्वभाव svabhāva が変わったということではないのでしょうか？ <祥子さん>

先生：そうではありません。それは強制されて行っているに過ぎないからです。熊に対して、「サーカスの外に行ってそのようにやってみなさい」と命じたならば、熊は人を襲うでしょう。熊が芸を演じているのは、単に鞭が怖いからであり、もし芸を演じなければ、エサをもらえないなどの罰を与えられることをよく知っているからです。ですからそれは स्वभाव svabhāva、あるいは संस्कार saṃskāra が変わってのことでなく、恐れがあつてのことです。しかし観客は、熊の印象が変わったのだと想像して楽しんでます。

Qこの संस्कार saṃskāra は行為の面において変えられないということですが、例えばあることを失敗してしまう、ということは変えることができないということでしょうか？ <田辺さん>

先生：私たちが誕生してから、死に至るまでのすべての行為は、既に100%決められています。例えば、今、眠気を感じたならば、睡眠という行為が後に続き、喉の渇きが生じたなら、何かを飲むという行為が後に続きます。この印象によって行為や物事が開始される前に、その徴候が現れます。生き物たちの全生涯において、それが持つ印象(संस्कार saṃskāra)は、五感によって知覚することができます。レモンの種を植えればレモンの木が芽生えると期待しますが、それはレモンの木にレモンの実がなることを良く理解しているからです。しかし突然、レモンの木にマンゴーの実がなったとしたら仰天します。一体どうしてマンゴーの実がレモンの木に実るなどということが起こったのでしょうか？ これを驚きと言います。なぜなら全く予期していなかったことが引き起こされたからです。印象とは、その植物や動物、人において私たちが期待しているものが現れることです。もしくは、その内側に隠されているものが現れることです。

Q聖者ヴァールミーキの例をあげるならば、彼の人生の初期において人を殺害することは彼のサムスカラではなかったのでしょうか？ けれどもナーラダ仙に会ってから、彼は一変して全く人を殺さなくなりました。と、言うよりむしろ鳥が殺されるのを見て、涙を流したほどです。この点については、どのように考えたらよいのでしょうか？ <ジェナさん>

先生：人を殺害する事は彼の संस्कार saṃskāra ではありませんでした。そのためにナーラダ仙は、ヴァールミーキを教え導いたのです。ナーラダ仙がヴァールミーキの人生に現れたのは、ナーラダ仙ご自身が、それはヴァールミーキの संस्कार saṃskāra ではないことを良くご存知であったからです。何か誤解があつたために、彼は強盗殺人などをしていました。しかし彼は、喜んで人を殺していたわけではなく、そもそもそれは彼の संस्कार saṃskāra ではなかったために変容させることが可能でした。

Q現世の संस्कार saṃskāra を変えることはできないということは、それは全て決められたものなのですよね？ であるのに、来世の生き方を変えることができるということは、来世の संस्कार saṃskāra を現世で作ることができるということでしょうか？ <匿名>

先生：私たちは今生における印象(संस्कार saṃskāra)を変えることはできません。しかし次の人生の संस्कार saṃskāra を変えることはできます。なぜなら次の人生の संस्कार saṃskāra を私たちは今、つまり今生において作っているからです。それをアーガミ・カルマと言います。私たちはアーガミ・カルマという形で、私たちの次の人生の संस्कार saṃskāra を今現在作っています。

Qしかし、それはおかしいような気がするのです。なぜかと言えば、この生の生き方などそういったことは、過去の生の संस्कार saṃskāra が全て決めているのに、次の生の संस्कार saṃskāra をどのようにして作る事ができるのか、という疑問が生じるのです。 <匿名>

先生：なぜなら、私たちは人間の体を得ているからです。もし私たちが動物の体を得て生まれてきたならば、つまり動物、鳥、植物、これら人間以外すべての生き物の場合は、次の生が完全に定められています。あらゆる生き物たちの中で人間の体だけに選択肢が与えられています。そのため私たちは悟りを開くことができます。次の生で悟りを開きたいか、もしくは他の体を得たいか、それは今生において選択できるものです。

Qと、言うことは、我々の今生においてのすべての行為は、完全に決められたものではないということですか？ <匿名>

先生：人間の人生にはふたつの側面があります。ひとつはこの肉体における物質的な側面、もうひとつは心理における微細な側面です。肉体的な側面から発生する結果は行為、そして心理的、かつ微細な側面から発生する結果は思考です。粗大な体によってなされる行為の面は、プララーブダ・カルマによって100%定められています、思考に関しては選択の余地が残されています。そこで、思考を変えたいと望むならば、充分、異なったものへと変化させることが可能な機会があるため、これを特別に自己努力(プルシャールタ)と呼ぶのです。しかし、変えるよう努力をしなければ、再びプララーブダ・カルマによって、動物であるかのごとく支配されてしまいます。大勢の人々は思考を変えようという選択はしませんし、悟りを得たいとも思いません。それゆえ、この人間の人生もまた、動物と同様に流れていきます。ほんのわずかな人だけが、プララーブダによって支配された思考を変えたいと自己努力を傾けるのですが、そういった人たちのみが、悟りを開く好機を得るのです。

Qでは自分を体とみなしている自己とは、プラクリティによって完全に規制されているけれども、自分の思考はそこから離れていて、その思考が来世の自分の生き方とか संस्कार saṃskāra を決めることができるということですね。 <匿名>

先生：悟りを開き、自らもいた家へと帰還するか、もしくは再び、840万種のこのサムサーラという名の観覧車の一周めぐりをするか、ふたつの選択肢があります。輪廻転生とは巨大な観覧車です。通常の観覧車には Gondola が4、50程しかありませんが、このサムサーラの観覧車には840万もの Gondola があります。840万の Gondola が意味するものとは、輪廻転生の輪に連なる840万種の生のことです。

Q今生において、思考を支配するために努力した結果、来世の状況が変わるということはないのでしょうか？ <尚子さん>

先生：もし、今生の思考を完全に支配することができるならば、この人生は非常に役立つものとなり、悟りを開く機会が得られます。思考を管理することができるならば、全生涯を管理することも可能になります。

Q例えば、大酒飲みでいつも人に迷惑をかけている人が、あることをきっかけに、例えばこの勉強会に参加するようになって、思考を支配することに挑戦するようになったとしたら、性格が変わり人生も変わるということもあるのでしょうか？ <尚子さん>

先生：その大酒飲みだった人が聖者と交際したり、聖典を学び思考を変えたならば、その人は偉大な聖者になることができます。実際、偉大な聖者たちの多くは、もともと欲望と怒りに支配されていました。ラーマーヤナを書いた梵仙ヴァールミーキなどがその良い例で、彼は非常に巧みな殺人者だったのです。彼は何千人もの人を殺め、人と見るや否やその人を殺してしまうほどでした。けれどもその彼が、この地上において偉大な聖者となりました。なぜなら偉大なナーラダ仙に会い、自らの思考を変えることによって、梵仙にまで到達する事ができたからです。

Q例えば幾人もの人を危めていた人物に、「殺したくないけど殺しているのだ」という慟哭や嘆きがあって、その人のもとへナーラダ仙が訪れたというならば、納得ができます。しかし、どういった理由でヴァールミーキの元にナーラダ仙が、

通常の法則に反するかのようにやって来て、教示してくれるのでしょうか？ それは、神仙ナーラダの恩寵と考えてよろしいのでしょうか？ <田辺さん>

先生：この出来事について、悟りの道を歩もうと精進する私たちが瞑想すべき点とは、神仙ナーラダの恩寵であるか、あるいはヴァールミーキのプララーブダ・カルマによってもたらされたナーラダ仙との巡り会いであったのか、という点です。いずれにせよ、何らかの関係があって2人は出会いました。そしてこの千載一遇の邂逅によって、片方が変わりました。二人の人物が出会い、一体どちらが変化する事になるのか、そこで試される事になります。つまり神仙ナーラダが殺人者となってしまうか、もしくは殺人者のヴァールミーキが梵仙となるのか、という事が焦点となりますが、それは一方の人の力強さによるでしょう。

この点について、釈迦牟尼仏陀が高弟アーナンダに対し、教え示した事を思い起こしてみましよう。

ある日、アーナンダは全身にびっしょり汗をかきながら走ってやって来ました。仏陀はアーナンダに対して、「なぜそんなに汗をかいているのか？」と聞きました。そこでアーナンダは答えました。「一人の売春婦がいつも、道行く私を止めようと努めているのです。」すると仏陀は、アーナンダに対して「娼婦があなたのあとを追いかけてくると言う事ですが、それは一体、どういった事でしょうか？」と尋ねました。アーナンダは返答しました。「私は毎回、歩む道を変えているのですが、どの道を行こうとも彼女に出くわしてしまいます。今日はわざわざ裏道を選んだのですが、それでも彼女にぶち当たってしまいました。そんなわけで、私は恐れおののいているのです。」それを聞いた仏陀は、こう諭しました。「売淫の彼女は求道者であるあなたを全く臆する事がないのに対して、あなたはこの教えを学び、恐怖をなくすべきところを、ただ一人の売色の女性と会っただけでそれほど怯えているとは、まだ叡智が確立していない証拠ではないでしょうか？ そのような有様では、あなたの悟りの道への歩き方は正しいと言えるのでしょうか？ 今、すぐにでも彼女に会いに行きなさい。それから、この2人の出会いによって、私は誰が誰によって変えられるかを見たいと思います。あなたが彼女によって変えられたならば、彼女と共に住みなさい。もしくは彼女に対して、あなたが歩む悟りの道を示す事ができたなら、あなたがこれまで努力してきた悟りの道が正しいものである事の証明になります」

そう言われて、アーナンダは彼女に会いに行きました。そして彼女に悟りの道を伝授し、最後に彼女はアーナンダの教えによって、偉大な聖者になりました。その出来事について、仏陀はこのように語りました。「彼女はあなたから学ぶために、ずっとあとを追いかけて、努力していたのですよ。」

このように、それはその人のプララーブダと言うこともできれば、聖者の恩寵によるものだとも考えられます。私たちは人生において善人にも、悪人にも出会います。しかし私たちの人生がその人と出会ったことによって、どちらの方面へ向かうかが大切な点です。自分が悪人と出会って悪人になると言うのであれば、聖典で学んだ事が全く無駄だったと言うことです。私が悪漢と出会って、その悪漢が悟りの道を歩むならば、聖典で学んだ事に価値があったと、私自身も聖典の言葉をより深く信頼する事ができます。このように、起こることすべては自分に対する試練です。この世界とは、私自身を映す鏡なのです。

Q印象と **स्वभाव** svabhāva との違いがよく理解できませんでしたので、もう一度説明して頂けますか？ <ロパさん>

先生：**स्वभाव** svabhāva と印象とは、おおよそ同じものです。**स्वभाव** svabhāva、**संस्कार** saṃskāra、**प्रकृति** prakṛti、これらは、ほぼ同じものを表します。

Q **स्वभाव** svabhāva という言葉を辞書で調べたところ、本質や性質という意味として載っていました。一方、**संस्कार** saṃskāra の方は潜在意識と書いてありました。すると、潜在意識と本質は、なんとなく共通性が見出せます。そこで、先ほど挙げられた例である、ブラジルへ行ったある方について考えてみますと、その方の話し方や振る舞いが「彼らしさ」という意味で本質、つまり **स्वभाव** svabhāva や **संस्कार** saṃskāra という言葉で表すのなら理解できるのです。しかし、彼がブラジルに行ったという事実は **संस्कार** saṃskāra ではなくて、プララーブダ・カルマではないのでしょうか？ <上里さん>

先生：確かにそれは、彼のプララーブダ・カルマに含まれていたものですが、彼自身は把握していないものでした。突然会社は、彼にブラジルに行くようにと命じ、しかも彼にはある理由があって、断ることができませんでした。こうした出来事は最後の段階になって目に見えるようになるものです。つまり、その出来事が発生する前の段階において、彼が自分で気がつくのは不可能であったということなのです。このような事柄が「隠れているもの」という意味を表しています。それはそこにあるものですが、次の瞬間には何がやってくるのかわからないものです。例えば素晴らしい人柄が印象的なある人に、思わぬ不手際が露呈しました。周囲の人々は「あんなに素敵な人が、どうしてそんなことをしたのだろう」と訝しく思うものですが、ことの成り行きは彼の中に非顕現という形で存在していました。それは **स्वभाव** svabhāva、もしくは印象とって、事象が現れる前にはその人の中に隠されていたものであり、その人にも、そして私たちにもまだ見受けられるものではありませんでした。

Q目に見えた状態で **स्वभाव** svabhāva になるということでしょうか？ <上里さん>

先生：**स्वभाव** svabhāva、もしくは **संस्कार** saṃskāra とは、私たちが見ることができるものです。潜在しているものが目に見えた時、それは **संस्कार** saṃskāra の形になります。

Q目に見えた時点で、**संस्कार** saṃskāra になるのでしょうか？ 以前は非顕現(アヴィヤクタ)と **प्रकृति** prakṛti は等しいものであるという勉強もしました。 <上里さん>

先生：実際的には、それらはすべて同じものです。しかし段階が違います。詳しく知ろうとするなら、非顕現(アヴィヤクタ)や印象 (**संस्कार** saṃskāra)、特性 (**स्वभाव** svabhāva)、性質 (**प्रकृति** prakṛti) など沢山の言葉があります。それらは違う段階において与えられた名前です。例えば、あなたはかつて娘でした。ある時、妻になりました。そしてある時には母になりました。同じあなたが時と共に変わって行きます。ある人はあなたを娘と呼び、ある人はあなたをお母さんと呼びます。また、ある人はあなたのことを奥さんと呼び、ある人は姉妹と呼びます。あなたというその人は同じ人物なのですが、人々が別の呼び名で語りかけます。それは様々な人々との関係によって変化します。同様に、ここでもその関係性に応じて、あるいは文脈に応じて言葉が変わります。

Q **संस्कार** saṃskāra について考えますと、過去の結果として今生に **संस्कार** saṃskāra を持ち合わせて来たものの、今生においてはそれが原因になっているように感じます。この **संस्कार** saṃskāra が私の思考を持っていて、それによって行為がなされているということですね。すると「私」という世界が、ただあるだけなのに、私が見たい世界を見ようとしている原因になっていると考えられるわけですから、それこそマヤーなのではないかと思うのですが。 <田辺さん>

先生：そこにある主題は同じなのですが、様々な段階に応じて様々な名前が存在します。アヴィヤクタとは、いまだ見ることができないものです。例をあげるなら、ある木にはまだ花が咲いていません。しかし10日後には花が咲き、その後は実がなり、そして最終的には種ができるわけです。種となった時には、少なからず、そこには見るべき形があるとは言えども、種の中に将来の木の姿を見ることは不可能です。これ以上、深く語るなら更に人々を混乱させてしまうかもしれないほど深遠な主題なのです。

では、先ほどの本題に戻ります。シャンカラーチャーリヤの注釈によれば、

धर्म अधर्म आदि dharma adharma ādi 美徳と悪徳などなど

と述べられていますが、この「などなど(आदि adi)」とは一体何を指しているのでしょうか？ ここでの、などなど(आदि adi)とは、美徳と悪徳の他にも二つの該当するものがあることを示しています。

この **आदि** adi が意味するものの中には、知識と意志が含まれます。そしてこの文脈における知識(ジュニャーナ)とは、自己(アートマン)に関する知識ではなく、この世間に関する知識のことです。

今日の皆さんの質問は、本当に素晴らしい内容ばかりで、時間をとても有効に使う事ができました。ありがとうございます。次回は、まだ少し残った部分を10分から20分ほど学んだ後で、34節に入りたいと思います。